いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を育てる道徳の授業の在り方
～体験との関連を図った考え、議論する授業づくりを通して～

要約

私たちは、日々の生活において、数多くの道徳的問題に直面している。例えば、環境問題といった地球規模のものから、友人関係といった身のまわりのものまで様々である。これらの問題の中には、機械的に答えを導くことができるものもあるかもしれないが、多くの場合、問題を解決するにあたって自分で考え、判断し、行動するといった行為が必要となる。自分がとる行動を考えるとき、その行動がどう周りに影響を及ぼすのか、もっと最善の方法はないのか、自分自身はそれでよいのかなど、様々な価値の問題が関わり合うことになる。中央教育審議会答申でも、「多様な価値観の、時の対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」としている。このように、これからの道徳教育は、自分で考え、他者と議論し、さらに自分の道徳的価値の理解を深めていく時間であるとされている。これから自分自身が生きていく中で直面する問題を、道徳的価値との関係でどのように捉え、どのように解決することができるのか、その答えを自分自身で探求し、よりよい解決策を導き出すための資質・能力を身につけることが求められている。

以上を踏まえて、一人ひとりが、自分自身をよりよく生きるために、「いかに生きるべきかを考え続ける姿勢」を育てることは、大変意義深いと考える。そのために、学校行事や総合的な学習の時間などでの体験を、考え、議論する道徳と関連づける研究を進めることとした。すなわち、道徳の授業で培った道徳的判断力・心情・実践意欲と態度をもとに、学校行事や総合的な学習の時間等での体験を行い、更には、体験を通して高まった道徳的価値から道徳の授業において、課題を自分のこととして捉え、自分の考えを深める研究である。考え、議論する道徳の授業づくりには、次のような手立てを講じる。

(1) 問題や課題に対して、「自分ならどうするか」「課題は何であるか」など、多面的・多角的に考える問題解決型の学習
(2) 教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで、多面的・多角的に考え、自我関与が中心の学習
(3) 役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、主体的に考え、解決する道徳的行為に関する体験的な学習

成果と課題

〇学校行事や総合的な学習の時間などの体験と関連付けながら、課題を自分のこととして捉え、課題を自力で解決したり、議論したりする道徳の授業は、生徒の主体的な考え方やよりよく生きていこうとする意志につながった。

●問題解決型の学習において、個人で課題を見つけさせる際は、課題が多様に拡散してしまう場合が多い。内容項目に照らし合わせて、課題を分類する際に焦点化するなどの手立てが必要である。

●体験後に道徳の授業を行う際には、高まった道徳的価値から課題を捉えることができるように、じっくりと体験を振り返る場などの設定が必要である。

キーワード　体験との関連　考え、議論する道徳

1　主題設定の理由

(1)社会的要請・現代教育の動向から

私たちは、日々の生活において、数多くの道徳的問題に直面している。例えば、環境問題といった地球規模のものから、友人関係といった身のまわりのものまで様々である。これらの問題の中には、機械的に答えを導くことができるものもあるかもしれないが、多くの場合、問題を解決するにあたって自分で考え、判断し、行動するといった行為が必要となる場合が多い。自分がとる行動を考えるとき、その行動がどうまわりに影響を及ぼすのか、もっと最善の方法はないのか、自分自身はそれでよいのかなど、様々な価値の問題が関わり合うことになる。これから自分自身が生きていく中で直面する問題を、道徳的価値との関係でどのように捉え、どのように解決することができるのか、その答えを自分自身で探求し、よりよい解決策を導き出すための資質・能力を身につけることが求められている。これからの社会を生き抜く子どもたちの未来は、これまで以上に複雑な問題が待ち受けているものと予想される。今後の社会のあり方が変化し、科学技術もさらに発達していく中で、人間としての在り方や生き方を問われる場面も増えていくであろう。そこで、このような予測困難な時代を生き抜くためには、「いかに生きるべきかを考え続ける姿勢」は、大変重要であり、だからこそ道徳教育の果たす役割はますます大きくなっていると考える。

(2)道徳教育のねらい・「学習指導要領解説　特別の教科　道徳」から

平成２７年３月、学習指導要領が一部改訂され、「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」（以下「道徳科」）として位置づけられた。それに伴い、道徳教育の目標は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と改められた。また、道徳科の目標も、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められた。これは、従来の授業が読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏りがちだった指導から、「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結びつけ、更に習慣化させる指導へと質的転換が図られているといえる。

そこで、子どもたちが、問題に直面した際に、自分はどうすべきなのか、何ができるのかを考え、判断・行動し、よりよく生きるために、いかに生きるべきかを考え続ける姿勢をもった子どもを育成する本研究は意義深いと考え、本主題を設定した。

(3)生徒の実態から

本学級の道徳性調査によると、４月の段階において、「道徳の時間は、自分の言動を決める上で役に立っているか」2.5（4 段階自己評定尺度法)、「道徳の時間が好きか」2.5 と低い数値になっている。その理由として、「自分にはあまり関係ない」「人の気持ちになって考えるのが苦手なので、道徳は好きではない」「話を聞いているだけの時間でつまらない」と、自分のこととして捉えることのできていない生徒が多い。そこで、本研究を進めるにあたって、学校行事や総合的な学習の時間、特別活動などを関連づけ、生徒たちが、道徳の時間を自分のこととして捉え、「自分だったらどうするか」「今後の自分の生活にどのように生かすか」といった自己との関わりから、生き方について考えさせる必要がある。本学級の生徒たちは、素直な生徒が多く、自分の気持ちに正直に生活することができている。しかしながら、考え方が非常に幼く、考えに深まりがない。そこで、これまでの自分の中で正しいと思っていたことについて、他者との議論に触れることにより、なぜ正しいのかの別の理由を見出したり、一面的な見方から多

面的・多角的な見方へと発展させたりと、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で考えを深め、今後の自分の生き方につなげていくことが必要であると思われる。

２　主題の意味

(1)「いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢」とは

「いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢」とは、時に対立することもある多様な価値観の中で、人間としてのよりよい生き方から自分の考えを深め、価値あるものを行おうとする意志と身構えを持ち続けることである。

「いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を育てる」とは、時に対立することもある多様な価値観の中で、人間としての生き方から価値あるものを行おうとする意志と身構えを持ち続けることを培うことである。本研究では、いかに生きるべきかを自ら考え続ける子どもの姿勢を以下の３つで捉える。

○　人間として生きるために道徳的価値が大切であることを理解し､様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力（道徳的判断力）

○　道徳的価値の大切さを感じ取り、人間としてよりよい生き方や善を志向する感情や道徳的行為への動機づけ（道徳的心情）

○　道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性（道徳的実践意欲)、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為の心構え（道徳的態度）

(2)副主題「体験との関連を図った考え、議論する」授業づくりとは

「体験との関連を図った」とは、学校行事や総合的な学習の時間等での体験を、道徳の時間と関連づけることである。

「考え、議論する」道徳とは、一人ひとりの生徒が、道徳的価値に根差した問題について、自分がどのように感じたり考えたりするのかを考え、異なる意見をもつ他者と議論することで多様な感じ方や考え方に出会い、人間としてのよりよい生き方から自分の考えを深めることである。

「考え、議論する」道徳科授業では、次のような手立てを講じる。

○　問題や課題に対して、「自分ならどうするか」「課題は何であるか」を多面的・多角的に考える問題解決型の学習

○　教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりの中で、多面的・多角的に考え、自我関与中心の学習

○　役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、主体的に考え解決する道徳的行為に関する体験的な学習

「体験との関連を図った考え、議論する授業づくり」とは、学校行事や総合的な学習の時間等での体験を、考え、議論する道徳と関連づけることである。すなわち、道徳の授業で培った道徳的判断力・心情・実践意欲と態度をもとに、学校行事や総合的な学習の時間等での体験を行い、更には、体験を通して高まった道徳的価値から道徳の授業において、課題を自分のこととして捉え、自分の考えを深め、価値あるものを行おうとする意志と身構えを持ち続けることができるようにすることである。

３　研究の目標

体験との関連を図った考え、議論する授業の実践を検証し、いかに生きるべきかを自ら学び続ける子どもを育てる道徳の授業の在り方を究明する。

４　研究の仮設

道徳科の学習において、「体験との関連を図った考え、議論する」道徳科の授業づくりを行えば、道徳的判断力・道徳的心情・道徳的実践意欲と態度が高まるので、「いかに生きるべきかを自ら考え続ける力」が育つであろう。

５　仮説検証の内容と方法

(1)検証内容

1　道徳的価値の大切さを感じ取り、理解しているか。

2　これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度、体験と関連を図った記述があるか。

3　いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を育てることができたか。

(2)検証方法

○　道徳的価値の大切さを感じ取り、理解をしているかの記述

○　これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度、体験と関連を図った記述

○　アンケートによる実態把握と生徒の考え方の変容

<table>
<tr><th>検証内容</th><th>検証方法</th><th colspan="2">評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1 道徳的価値の大切さを感じ取り、理解しているか。</td><td rowspan="3">学習プリントの記述</td><td>A</td><td>道徳的判断力・心情において高まっている記述がある。</td></tr>
<tr><td>B</td><td>道徳的判断力・心情における記述がある。</td></tr>
<tr><td>C</td><td>A、B以外。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2 これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度、体験と関連を図った記述があるか。</td><td rowspan="3">学習プリントの記述</td><td>A</td><td>これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連を図った記述がある。</td></tr>
<tr><td>B</td><td>これまでの自分もしくはこれからの自分のどちらかの記述がある。</td></tr>
<tr><td>C</td><td>A、B以外。</td></tr>
<tr><td colspan="4">価値の理解、実践意欲の判断において、価値の理解A、実践意欲Aのときは、A（AA＝A）以下、BA＝A、AB＝B、BB＝B、CB＝B、BC＝C、CC＝Cと判断する。</td></tr>
</table>

3　検証内容：いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を育てることができたか。

検証方法：研究事前・事後の道徳性調査及びアンケート（４段階自己評定尺度法）

(1) 道徳性調査（４段階自己評定尺度法）の変容

(2) アンケート：資料の内容を、自分のこととして捉えて考え、表現しているか。

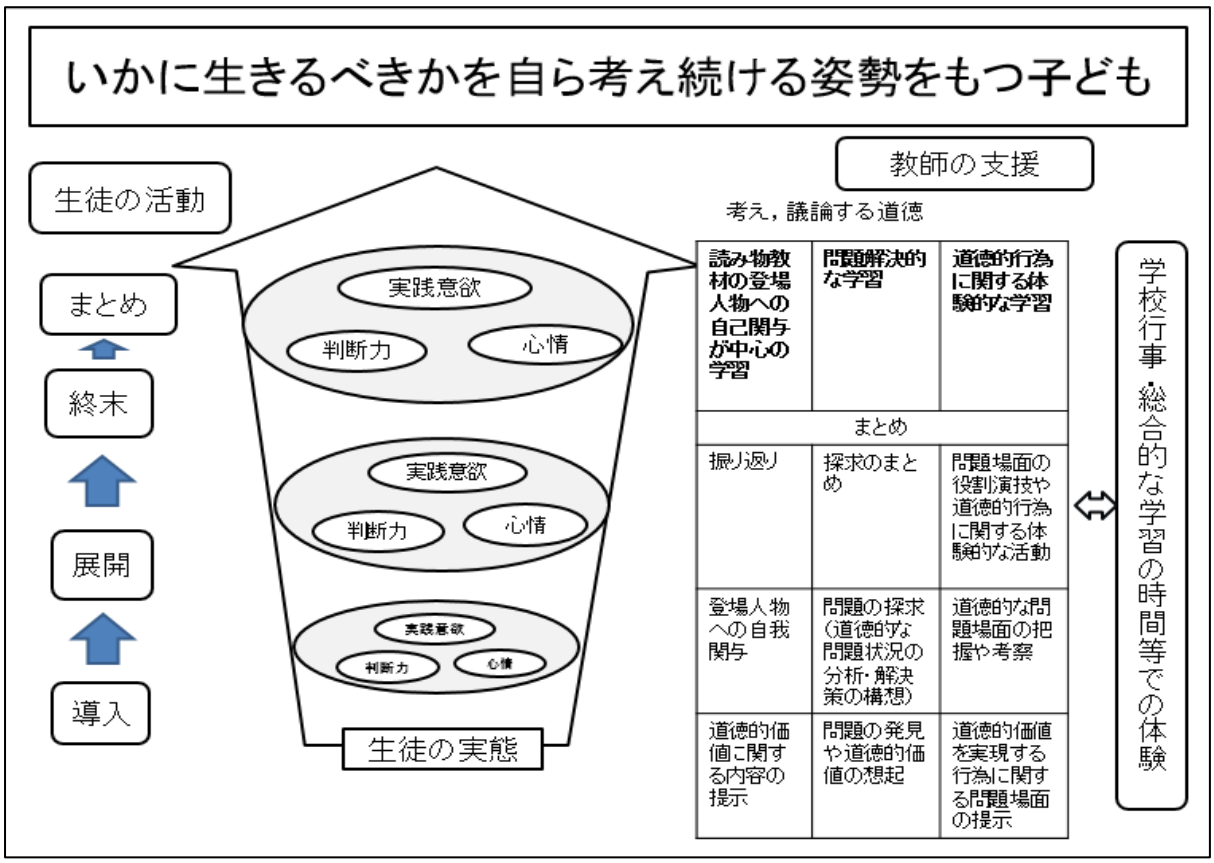
(3) アンケート：道徳の授業の中で、友達などの意見を聞いて、自分の考えが変化したり深まったりしているか。

(4) アンケート：自分の考えを伝え合うことができているか。（班・ペア・集団）

(5) アンケート：今までの自分を振り返り、今後の自分の生き方に生かしていこうと感じられるか。

(6) アンケート：道徳の時間が、自分にとってどのような時間になっているか。（記述）

６　研究の構想図



７　研究の実際

(1)検証授業１（７月実施）

題材名「カーテンの向こう」内容項目　Ｂ－６　思いやり(関連を図った体験：中体連夏季大会)

「心のつながり（Ｂ－８）」→「背番号１（Ｃ―１５）」→「嶋耕作～ある朝の出来事から（Ｃ－１２）」→体験→「カーテンの向こう（Ｂ－６）」

ねらい

思いやりの心をもって人に接するとともに、誰かの支えや多くの人の善意により、日々の生活があることに気づき、進んでそれに応え、人間愛の精神に深めることができるようにする。

この実践において、中体連前にまず「心のつながり」「背番号１」「島耕作～ある朝の出来事から」の道徳を行い、「信頼・友情」「集団生活の充実」「公共の精神」の心を培い、中体連大会に臨んだ。集団の中で自分の役割と責任をもって取り組み、目標達成に向けて仲間と共に困難に立ち向かいながらやり抜こうという意欲や、校外で活動する際に誰もが気持ちよく過ごすために必要な心をもって中体連大会に臨むことができた。中体連でできた集団の高まりや公共の精神を生かし、本時では、「思いやり」を伸ばし、誰かの善意により日々の生活があり人間愛の精神を深めるために本実践を行った。

①授業展開の実際

○つかむ段階

黒板に小さなカーテンを準備し提示した。生徒たちは、「カーテンをめくると何が出てくるの。」「カーテンを早くめくりたい」などと発言し、本時学習への意欲を高めることができた。

【写真１】

○考える段階

発問１　ヤコブが死んだときの私の気持ちはどのような気持ちだろうか。

資料の前半を範読し、最初はヤコブの話を楽しみに聞いていた「私」だが、ベッドを譲ろうとしないヤコブに対し、うらやましさと憎しみの気持ちに変容していく私の気持ちを共感的に感じ取らせるために【発問１】を行った。生徒たちは、「私」の気持ちを共感的に捉え、ヤコブ

の態度に対し、「なんて自己中心的なヤツだ」「ヤコブが早く死んでしまえば、次は自分がベッドを独り占めできる」と記述し、誰もが持つ人間の弱さを確認することができた。

○深める段階

発問２　カーテンの向こうを知ったときの「私」はどのような気持ちだろうか。

資料の後半を範読し、ヤコブの思いやりの心をつかませるために、資料中の「カーテンの向こう側にあるもの・・それは（　　）の空欄箇所を個人で考えさせた。その後、数人の生徒に、黒板に提示していた小さなカーテンをのぞかせ事実を目の当たりにさせた。最後に、【発問２】を行い、ヤコブの思いやりの心に触れさせた。生徒たちは、「ヤコブは、みんなに夢を希望を与えていた」「ヤコブが早く死んでしまえばよいと言った自分が情けない」という意見が出た。

発問３　あなたが「私」の立場だったら、あなたは今後どのような生き方をしますか。

「本当の思いやりの心」について、生徒一人ひとりが主体的に考えることができるように、自我関与の発問を行った。生徒は「自分もヤコブの思いを引き継いで、作り話をして病室の人に夢と希望を与え続ける」「主人公の「私」と同じようにヤコブのことを恨んでいた人に、ヤコブがしてくれていた本当のことを伝える。なぜなら、ヤコブの優しさをみんなが知ることができれば、死んだヤコブへ感謝できるから」と記述した。

○見つめ直す段階

発問４　思いやりの心について、これまでの自分、これからの自分について考えよう。

発問３を通して考えた思いやりの心について、一般化し、自分を見つめ直すために、【発問４】を行った。生徒たちは、「思いやりとは、時には嘘をついてでも誰かのためになるのなら必要なのかもしれない。」「人を傷つける嘘は絶対についてはだめだけど、人の役に立つ嘘なら言ってもよいのかもしれない。自分は人の役に立つような優しさを持ちたい」と記述した。

②検証の結果

検証内容	検証方法	評価基準		人数
1 道徳的価値の大切さを感じ取り、理解しているか。	学習プリントの記述	A	道徳的判断力・心情において高まっている記述がある。	29
		B	道徳的判断力・心情における記述がある。	8
		C	A、B以外	0
2 これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度、体験と関連を図った記述があるか。	学習プリントの記述	A	これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連を図った記述がある。	11
		B	これまでの自分もしくはこれからの自分のどちらかの記述がある。	17
		C	A、B以外。	9

評価	評価基準	人数
A	道徳的判断力・心情において高まった記述と、これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連づけた記述がある。	11
B	道徳的判断力・心情に関する内容の記述がある。	23
C	A、B以外	3

③成果と課題

○自我関与の発問を行ったことで、生徒たちは、自分ならどうするだろうか、どのような生き方が相手のためなのか等、意欲的かつ主体的に考えることができた。

●自我関与の発問を行った後に、思いやりの心についての価値を一般化する発問に重きをおきすぎ、これまでの自分・これからの自分について考える時間が不十分であった。

(2)検証授業２（１０月実施）

題材名「たいせつなきみ」　内容項目　Ａ－３　個性の伸長（関連を図った体験：文化発表会）

「村長さんのお祝い（Ｃ－１５）」→体験→「たいせつなきみ（Ａ－３）」

ねらい

他からの評価でなく、自分のよさを発見して前向きに生きることが、自己の向上につながることを理解できるようにする。

この実践において、まず「村長さんのお祝い」の道徳を役割演技の授業をもとに「集団生活の充実」の心を培い、文化発表会のクラス合唱につなげた。生徒たちは、自分の役割を果たし、クラスの一員として、心を一つにして合唱を成功させようという意欲を持って合唱コンクールに臨むことができた。文化発表会を通してできたつながりを生かし、本時では、「個性の伸長」を伸ばし、周りの目を気にすることなく、自分らしく生きることや、認めてくれる人の存在のおかげで自分らしく自信を持って生きていくことができることを理解させ、更なる道徳的実践意欲を高めるために本実践を行った。

①授業展開の実際

○つかむ段階

生徒一人ひとりにお星さまシールやだめじるしシールを貼っていき【写真１】、疑似体験することで、シールを貼られたときの気持ちを感じ取らせた。生徒たちの反応は、「きらきらのお星さまシールの方がいい」「灰色のシールは屈辱」「貼ってもらえないのは忘れられた気がする」等、主人公の気持ちに近づくことができ、学習意欲を高めることができた。

【写真１】

○考える段階

発問１　パンチネロにシールがつく理由、ルシアにシールがつかない理由を考えよう。

２つを比較させながら考えさせることで、他からの評価ではなく、自分なりの生き方をすることが大切であることに気付かせるために、【発問１】を行った。様々な視点の考えを学級全体に広めるために、班で交流させ、発表させた。【写真２】このことにより、自分の考えが深まり、多様な考え方を共有し合うことができた。

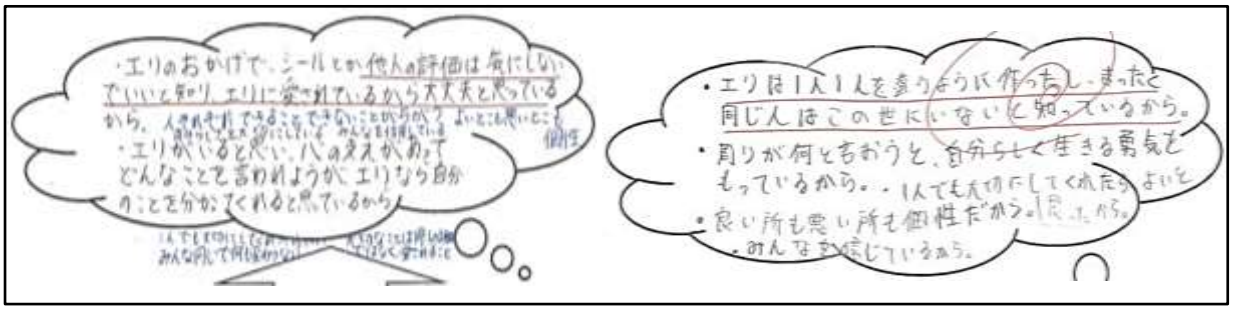
【写真２】

○深める段階

発問２　ルシアは、なぜ周りからどう思われているかなんか気にせず、 自分らしくあればよいと、自然にふるまうことができるのだろうか。

他からの評価ではなく、自分らしく生きていこうという実践意欲を高め、その先には、ありのままの自分を認めてくれる存在がいてくれるからことであることに気付き、道徳的価値を更に深めることができるように、【発問２（中心発問）】を行った。生徒たちは、学級全体で共有した意見をもとに、「自分をつくったエリに愛されているから、周りからどう思われようと気にならない」「自分を認めてくれる人がいるから、自分らしくいられる」「エリは一ひとりを違うように作ったし、まったく同じ人はこの世にいないから」「この世に自分は一人しかいないし、自分のことが大事だとわかっているから」という意見が出され、自分の考えを更に深めることができた【資料１】。

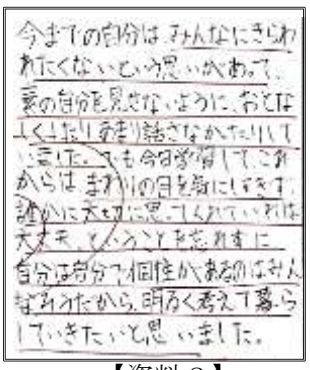
【資料１　道徳的価値が深まった生徒の考え】



○見つめ直す段階

発問３　これまでの自分とこれからの自分について書こう。

これまでの自分を振り返り、今後どのような生き方をしていこうと思うか実践意欲を高めるために、【発問３】を行った。本時学習を通して、生徒たちの多くが、「今までは、周りの目を気にして自分らしさを出せていなかったけれど、これからは、他人がどう思うかなんて考えず、認めてくれる人のためにも自分らしく生きていきたい」、「今までは自分に自信がなく周りの目がどう思うかばかり考えていたけど、認めてくれる人がいるから堂々と生きていきたい」と記述した。



【資料２】

②検証の結果

検証内容	検証方法	評価基準		人数
1道徳的価値の大切さを感じ取り、理解しているか。	学習プリントの記述	A	道徳的判断力・心情において高まっている記述がある。	22
		B	道徳的判断力・心情における記述がある。	15
		C	A、B以外	0
2これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度、体験と関連を図った記述があるか。	学習プリントの記述	A	これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連を図った記述がある。	19
		B	これまでの自分もしくはこれからの自分のどちらかの記述がある。	18
		C	A、B以外。	0

評価	評価基準	人数
A	道徳的判断力・心情において高まった記述と、これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連づけた記述がある。	17
B	道徳的判断力・心情に関する内容の記述がある。	20
C	A、B以外。	0

③成果と課題

○文化発表会の行事を通して高まった個性の伸長の道徳的価値をもとに、役割演技を取り入れて本実践を行ったことで、これまでの自分を振り返り、今後どのような生き方をしていこうと思うかの実践意欲をほぼ全員が書くことができていた。道徳性調査においても、４月に比べると「個性の伸長」では、2.9から3.2（4段階自己評定尺度法）と上がっており、自己を見つめることができたと言える。

●文化発表会を通して高まった道徳的価値から課題を捉えることができるように、導入段階において、生徒の感想文を提示したり、ビデオ視聴させたりするなどの手立てが必要である。

(3)検証授業３（１１月実施）

題材名「一冊のノート」　内容項目　Ｃ－１４　家族愛（関連を図った体験：職場体験学習）

「乱れたスリッパ（Ｃ－１２）」→ばあば、だいじょうぶ（特別活動）→体験→「一冊のノート（Ｃ－１４）」

ねらい
家族の一員としての自覚を持ち、家族とどのように関わり生活していくかを考えることができる。
キャリア教育の一環として、総合的な学習の時間・特別活動において、働く意義や勤労についての学習を行っている。そこで、総合的な学習の時間との関連を図り、社会の一員としての自覚を持ち、将来の生き方について考えを深めるために、「乱れたスリッパ」を題材に社会の一員としての自分の果たす役割について討論型の授業を行った。次に、少子高齢化社会についての題材を取り上げ、司書の先生をゲストティーチャーとして招き、「ばぁば、だいじょうぶ」という絵本の読み聞かせを行った。認知症や高齢化社会についての問題意識をもたせた上で、本時学習に取り組み、本資料から中学生として考えるべき課題を自ら見つけ、解決していく問題解決型の授業を行った。

①授業展開の実際

○つかむ段階

事前に読み聞かせをしておいた「ばあば、だいじょうぶ」の感想を読み、認知症や高齢化社会についての問題意識を持たせた。その後、一冊のノートを範読し、これから社会の一員になっていく中学生として話し合うべき「課題」について考えさせた。

発問１　この資料の中で、中学生として話し合うべき「課題」を見つけてみよう。

生徒たちは、「強くあたってしまう自分の行動」「からかっている友達に対する自分の行動」「自分の祖母が認知症になったとき、自分はどう対応すればよいか」「身のまわりで、同じような人に出会ったとき、どう対応すればよいか」など、様々な視点から課題点を見つけた。

○考える段階

生徒たちから出された課題をもとに、課題の内容が類似しているグループに分け、解決策を考えさせた。生徒たちの多様な意見を引き出し、一人ひとりの考えを広げ、深めるために、解決策を一つに絞らず、自由に考えを出すように指示した。２名ペア、４名グループ、６名グループ等、様々な人数でグループをつくり、生徒たちは、自分の考えを自由に発言することができていた【写真３】。

【写真３　類似した課題をもとに解決策を話し合う生徒たち】

○深める段階

発問２　黙って、祖母と並んで草取りを始めた「僕」は、どんな人間なのだろうか。

道徳的価値への理解を深めるために、一冊のノートに立ち返り【発問２】を行った。更に、家族の一員として、今後、自分がどのように家族と関わっていくかを問い、自分自身を振り返らせることができた。生徒は、他人事ではなく、自分にも関わってくることであることを実感し、家族との接し方について、自分自身を見つめ直すことができた。

②検証の結果

検証内容	検証方法	評価基準		評価
1 道徳的価値の大切さを感じ取り、理解しているか。	学習プリントの記述	A	道徳的判断力・心情において高まっている記述がある。	16
		B	道徳的判断力・心情における記述がある。	21
		C	A、B以外。	0
2 これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度、体験と関連を図った記述があるか。	学習プリントの記述	A	これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連を図った記述がある。	17
		B	これまでの自分もしくはこれからの自分のどちらかの記述がある。	19
		C	A、B以外	1

評価	評価基準	人数
A	道徳的判断力・心情において高まった記述と、これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度かつ体験と関連づけた記述がある。	20
B	道徳的判断力・心情に関する内容の記述がある。	16
C	A、B以外。	1

③成果と課題

○家族愛について、友達の多様な考えに触れることができ、生徒たち自身も、自分が考えていなかった意見から、多角的な見方・考え方につながっていった。

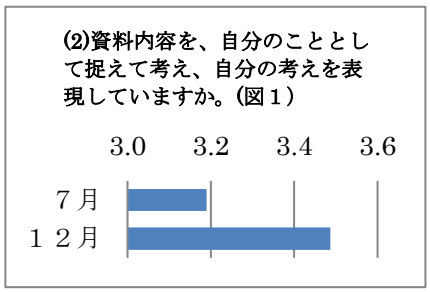
●問題解決型の授業を行ったが、じっくりと自分の考えを作り、他者と比較させたり、他者と話し合ったりするには、１時間の授業の中では時間が不十分であった。事前に資料を読み、自分の考えを持っておかせたり、２時間構成にするなど手立てが必要である。

８　研究のまとめと今後の課題

(1)研究のまとめ（研究事前・事後のアンケートの変容より）

１２月に行った生徒の道徳性調査では、４月に比べると、「B−６　思いやり（3.4）→（3.5）」、「A−３　個性の伸長（2.9）→（3.2）」、「C−１４　家族愛（3.0）→（3.2）」という数値を示した。

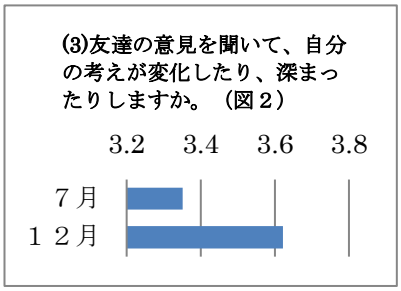
また、【資料３】からわかるように、内容項目２４項目のうち１２項目で数値が上がった。

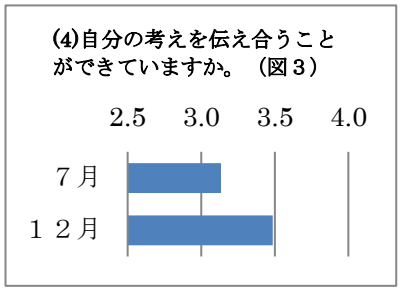


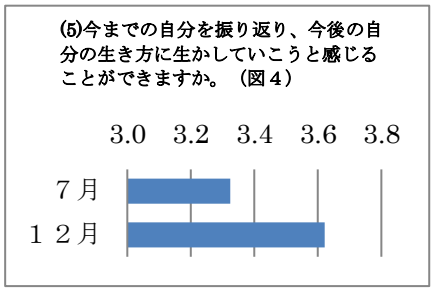
【資料３　道徳的内容項目の捉えの変容】

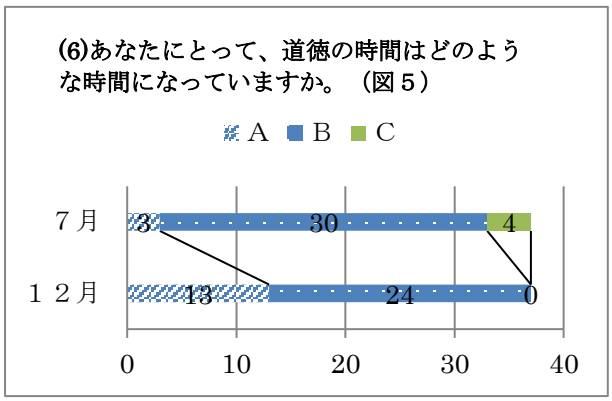
(1)道徳性調査の結果の変容

	内容項目	4月	→	12月
A	自主　自律　自由と責任	3.0	→	3.3
	節度　節制	3.0	→	3.6
	向上心　個性の伸長	2.9	→	3.2
	希望と勇気　克己と強い意志	3.1	→	3.2
	真理の探究　創造	3.2	→	3.2
B	思いやり　感謝	3.4	→	3.5
	礼儀	3.3	→	3.3
	友情　信頼	3.5	→	3.5
	相互理解　寛容	3.3	→	3.3
C	遵法精神　公徳心	3.5	→	3.8
	公正　公平　社会正義	3.3	→	3.4
	社会参画　公共の精神	3.1	→	3.0
	勤労	3.1	→	3.1
	家族愛　家族生活の充実	3.0	→	3.2
	よりよい学校生活　集団生活の充実	3.0	→	3.3
	郷土の伝統と文化の尊重　郷土を愛する態度	3.1	→	3.2
	我が国の伝統と文化の尊重　国を愛する態度	3.6	→	3.4
	国際理解　国際貢献	3.1	→	3.4
D	生命の尊さ	3.8	→	3.8
	自然愛護	3.3	→	3.3
	感動　畏敬の念	3.3	→	3.3
	よりよく生きる喜び	3.1	→	3.2









(6) A：自分を見つめ直す・友達と交流するかつこれからの生き方についての記述がある。

B：自分を見つめ直すまたは、友達と交流するについての記述がある。

C：A、B以外。

【資料４　生徒アンケートの変容（図１～図５）】

【資料４】の図１より、自分のこととして捉え、自分の考えを表現できるようになったことがわかる。「人の気持ちを考えるのが苦手なので、道徳の時間は苦手である」と答えていた生徒も、１２月には、「道徳の時間は、自分の考えを自由に表現でき、班や学級で話し合うことのできる時間」と答えるなど、大きな変容が見られた。また図２、図３の結果からもわかるように、友達と話し合ったり、伝え合ったりすることで、自分の考えを深めることができる生徒が増えた。更に、図４では、学習したことをもとに、今後の自分の生き方につなげていく実践意欲をもつことができた。また、「道徳の時間では、これまでの自分を振り返り、これから自分がどうすればよいか、どう生きていくかを学ぶことができる」と答えた。

これらのことより、学校行事や総合的な学習の時間などを関連付けて、一人ひとりの生徒が、道徳的価値に根差した問題について考え、異なる意見をもつ他者と議論したことは、人間としてのよりよい生き方から自分の考えを深め、価値あるものを行おうとする意志と身構えを持とうとすることにつながったと考える。

(2) 今後の課題（○：成果　●：課題）

○学校行事や総合的な学習の時間などの体験と関連付けながら、課題を自分のこととして捉え、課題を自力で解決したり、議論したりする道徳の授業は、生徒の主体的な考え方やよりよく生きていこうとする意志につながった。

●問題解決型の学習において、個人で課題を見つけさせる際は、課題が多様に拡散してしまう場合が多い。内容項目に照らし合わせて、課題を分類する際に焦点化するなどの手立てが必要である。

●体験後に道徳の授業を行う際には、高まった道徳的価値から課題を捉えることができるように、じっくりと体験を振り返る場などの設定が必要である。

＜参考文献・引用文献＞

中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　文部科学省

「考え、議論する道徳」の指導法と評価　西野真由美・鈴木明雄・貝塚茂樹　編

特別の教科　道徳Ｑ＆Ａ　松本美奈/貝塚茂樹/西野真由美/合田哲雄/

考え、議論する道徳を実現する！　「考え、議論する道徳」を実現する会